



M.M

# 神奈川県環境学習リーダー会 会 報

No. 28

2002年  
8 9月

## 役員会報告 (事務局長 児玉 勇)

### 8月役員会 8月26日(月)

1. 清水代表より「NPO申請」早期実施の検討指示
2. 本会の略称を「K・リーダー会」とする
3. 子ども体験教室の実施状況報告
4. 本会、または本会経由での受託業務の報酬配分についての意見交換(特に環境学習アドバイザー)
5. 藤沢養護学校との「交流会」(総合学習の一環)の開催について企画内容とスケジュール調整、別掲参照
6. 相模湖町の環境イベント(来年1月)の協力方法について打合せ
7. 県央地区における地域環境保全に向けた健康診断(試案)発表(石丸) 別掲参照

### 9月役員会 9月19日(木)

1. 「子ども環境体験教室」反省会(9月18日実施)の報告

### カット：クズの花

林の緑や道端で他の木に巻きつきながら成長する。紅紫色の花びらの中に黄色く目立つ斑点がある。甘いにおいがしてたえず虫がやってくる。かつてこの花の根から“くず粉”をとった。花期は7~9月。日本の全土で見られる。

2. 環境学習(教育)部会の位置づけと展開について意見交換(NPO環境学習研究会(東京)のホームページを参考にし、関係記事別掲)
3. 「市民環境活動報告会」の取り進めについて(別添折込チラシ参照)
4. 藤沢養護学校「交流会」内容確認
5. 上半期の会計報告(会費納入促進、活動の活発化による経費増大の対処)
6. 親子で楽しむ「環境展」(既報)反省会(反省会に出席された北村エネルギー部会長、渡邊吉一氏には役員会冒頭から参加いただいた)

## 今、役員会で論議されていること - 環境教育・学習部会をつくろう -

新規プロジェクト担当 木本 光昶

K・リーダー会の役員会は毎月1回開催され、その内容は会報に報告されています。

そこでは数多くのテーマと取り組み、検討を行っていますが、それらの中で、特に今後の当会の運営にとって重要と思われる清水代表が提案された「環境教育・学習部会(仮称)」について報告することにします。

### [清水提案]

現在、当会には5つの部会がありますが、その中で廃棄物・リサイクル部会と自然環境部会の現状認識と反省を踏まえて、これらの部会活動を行動や実践を背景にした教育・学習と環境倫理の向上に重点をおいた見直しをし、当会の環境活動全体の活性化を図りたいというのが清水提案の狙いであり、その骨子は以下のとおりです。

#### 1 部会活動の見直し

自然環境とかごみ問題は本来地域性の高いもの

であるから、ケナフ部会、エネルギー部会、モニタリング部会などの専門部会と異なり、地域を拠点とした活動を行うことが望ましい。

言い方を換えれば、自然環境部会と廃棄物・リサイクル部会を統合した「環境教育・学習部会」が地域活動の中心になって活動する。その活動範囲は自然環境とかごみ問題に限らず、教育・学習、まちづくりなどの分野を含むというものである。

#### 2 運営委員会の役割

「環境教育・学習部会」は地域ごとの活動単位であるから、地域ごとにバラバラに活動するのではまとまりがなく、効率も悪い。そこで現役員から選出した委員からなる「運営委員会」が部会間の情報交換、地域活動の事例紹介、環境情報の発信、広報など部会活動の円滑な運営を支援し、地域活動の輪を広げる役割を担う。

(次頁へ続く)

(前頁からの続き)

### 3 専門部会のあり方

ケナフ部会、エネルギー部会、モニタリング部会などの専門部会は専門性と継続性が要求されるため、現在の活動の継続性を維持することが望ましい。

#### [役員の見解]

この清水提案に対し各役員から活発な意見交換が行われました。その主なものを挙げます。

- 1 この提案は本会の今後の運営を考える上でたいへん参考になり、興味深い。
- 2 地域の拠点をつくる方法として会員名簿を地域割りにし、その地区の責任者を決めてその人を中心に環境活動を広げてはどうか。
- 3 ボランティア活動は本人の自発性に基づくも

のであるから、トップダウン方式で拠点づくりをしてもうまくいかないのではないかと。

- 4 環境教育・学習部会はその活動内容を限定せず、環境全般に広げてはどうか。
- 5 運営委員会は地域ごとの部会のネットワークをつくり、資金を含めその活動を支援するようにはどうか。

など。

清水提案については、まだ議論の半ばであり、今後さらに検討を重ねていく必要があります。

会員の皆様からのご意見、ご感想をお寄せください。

宛先 新規プロジェクト担当 木本 光昶

TEL / FAX 045 563 4597

E-mail t-kimoto@02.246.ne.jp

## 『子ども環境体験教室』を終えて

環境科学センター 生駒 進

「子ども環境体験教室」は、子どもたち(小学4年生から中学生が対象)が自ら調べたり、観察したり、作ったりすることを通して、楽しみながら環境について考えていかれるようにと、今年度より企画した事業です。6月29日の「古紙の紙管で写真立てを作ろう」から、「調べてみよう身近な環境・川を知ろう」、「楽しい省エネ教室」、「調べてみよう身近な環境・大気を知ろう」、「ケナフ染めに挑戦しよう」と続き、9月8日の「調べてみよう身近な環境・自然らしさを知ろう」まで、延べ8日間にわたって実施しました。

また、子どもたちが日常的に環境保全活動を実践している大人たちと直接触れ合うことによって、子どもたちに多くのことを学び取ってもらいたいという願いから、環境学習リーダー会の皆様に教室の企画や実際の指導を受け持ってもらいました。

ダンボール古紙の紙管をのこぎりやカッターで切り、組み立て、思いもよら

ないような立派な写真立てができて喜ぶ子どもたち。手回し発電でその仕組みと、エネルギーが運動、音、光などに使われることを知って不思議がる子どもたち。川の生物を観察して川の水の汚れぐあいを知って驚く子どもたち。自分の家の周りの空気を採取して、エコアナライザーで二酸化窒素の濃度を測定し、

その数値にさまざまな思いを抱く子どもたち。ケナフの花びらで、自分の持ってきたハンカチがおもしろい模様とともにきれいな色に染まり満足する子どもたち。初めは「クモなんてヤダ」と言っていたのに、説明を聞き庭に出ると、一生懸命になってジョロウグモを観察するようになった子どもたち。

どの教室とも、夢中になって取り組む子どもたちの姿が印象的で、熱心に準備し懸命に自分たちの思いを伝えようとするリーダー会の人たちの熱意があふれる教室にすることができ、よかったです。

そのような中で残念だったのは、教室担当のリーダーが教材づくりから前準備の実験までして用意した「子どもごみ探検隊」が、

希望者が2名にしかならず中止せざるを得なくなってしまったこと、それ以外の教室でも少人数での実施になってしまった教室が出てしまったことがあげられます。

子どもたちが今まで知らなかった事実を知る喜びや、子どもたちが心の底から「楽しい」「おもしろい」「びっくり

した」「不思議だ」などと感じ、心の中に深く残る体験こそが、これから子どもたちが環境を考える時の基本となるのだと思います。環境学習リーダー会の日々の活動がそのようなものとなるよう、そして一層の発展があるよう願っています。



# 環境教育指導者派遣事業

## 環境学習リーダーも対象に 横須賀市の場合

横須賀市は、環境教育を行なう市民ボランティアの方を「環境教育指導者」として登録し、市内の小中学校へ派遣するシステム作りに取り組んでいます。このシステムは神奈川県で初めてのものです。担当の横須賀市環境部環境計画課主査、川名理恵子氏に伺いました。

Q：事業を考えたいきっかけは？

A：横須賀市は、以前から環境教育を充実していかなければと考えていましたし、学校でも「総合的な学習の時間」で取り組みテーマは「環境」が多いのです。けれども学校の先生方は「環境」の専門ではないので、試行錯誤されているという面もあります。一方、環境をテーマに調査研究やボランティアなど市民活動しているグループの方々には、次世代にも環境の大切さをわかってほしいから、子どもたちに話す機会はないか、教育現場で協力できることはないかと考えている方も大勢います。一部ではすでに市民ボランティアを迎え、環境教育を展開している学校もありますが、お互

いに必要とする学校と市民ボランティアをつなげるシステムを作り、両者の橋渡しの役をしたいと考えました。

Q：どのような人が対象ですか？

A：今年度は、環境カウンセラー（環境省登録）・環境学習リーダー（神奈川県登録）・アイクルマイスター 下記注参照（横須賀市登録）を対象に募集をし、8月に説明会を開きました。

Q：反響はありましたか？

A：8月末までに16名の方の応募があり、現在ボランティア保険加入手続きなど今後の活動に必要な準備をしているところです。

Q：予算は？

A：初年度ですから、保険料や指導者への交通費程度の謝礼金など、ごくわずかです。

Q：学校から問い合わせはありましたか？

A：制度を立ち上げたばかりでピーアールはこれから。現実には、作ったシステムがすぐに稼働できるか不安はあります。学校から派遣の要望があった場合、テーマやプログラムなどの打ち合せや人選など、軌道にのるまでフォローし、市民とともに歩いていきたいと思っています。

注 アイクルマイスター：市の一般廃棄物についての養成講座を受講し、課程を修了した人

（広報部 森 千春）

## 藤沢養護学校との 交流会はじまる - 参加希望者募集 -

事務局長 児玉 勇

今般、藤沢養護学校の要望で「総合的な学習」の一環として中学生21名を対象に「環境を学びながらの交流会」を4回にわたって始めました。

第1日 9月27日 10:00~12:00

「公園をきれいにしよう」

第2日 10月25日 10:00~14:00

「川について調べよう」（厚木三川合流点）

第3日 11月12日 10:00~14:00

「海について学ぼう」（鵜沼海岸）

第4日 11月28日 10:00~12:00

「リサイクルを考えよう 工作」

（雨天対策の代案も準備しています）

急な話で前もって皆さんに連絡が出来ないまま、藤沢の会員と役員で先方と打合せスタートを切りました。

第2回以降、参加希望の方ご連絡ください。各回2名前後の方ご協力願います。

各回とも9時に小田急「六会日大」駅改札口集合で学校に向かいます。

連絡先：TEL&FAX 045-423-3960 児玉 勇

## 当会の略称 「K・リーダー会」に

「神奈川県環境学習リーダー会」の略称は決まったものがなく、従来から「リーダー会」や「Kリーダー会」などいろいろな形で使われてきました。

このたび、役員会で略称を統一しようということになり、様々な議論を重ねた結果「K・リーダー会」とすることに決まりました。

今後、当会の略称を使用される場合、この略称を使用して頂くようお願いいたします。

（広報部 木本 光昶）

## 部会活動

### 環境モニタリング部会

部会長 佐伯 秀夫

#### 活動報告

##### 1. 子ども環境体験教室の開催

(場所：環境科学センター)

「川について調べよう」

・日時：7月21日(日)

10:00~15:00

・内容：

a)水の説明、川の水質調査実習

b)水生生物指標の調査方法

c)調査のまとめ方、質疑応答

・参加者：37名(男13名、女4名)

・講師等：斉藤昭一、杉崎茂、斉藤美代子、  
柳川三郎、古谷敏夫

「大気について調べよう」

##### 第1日

・日時：8月6日(火)

13:00~15:30

・内容：

a)大気の汚れの現状、原因、対応策の  
説明

b)エコアナライザーの説明、捕集管組  
立実習

・参加者：20名(男12名、女8名)

・講師等：飯野牧夫、田村了一、佐伯秀夫、  
村上述

##### 第2日

・日時：8月9日(金)

13:00~16:00

・内容：

a)サンプリング済み捕集管による測定  
実習

b)測定結果によるマッピング作成、配  
付

c)調査結果のまとめ、質疑応答

・参加者：第1日と同じ

・講師等：第1日と同じ

「自然について調べよう」

・日時：9月8日(日)13:00~16:00

・内容：

a)自然環境と生物指標の説明

13:00~14:20

b)隣接広場で観察実習

14:20~15:30

c)“環境マップ”の説明、質疑応答

15:30~16:00

・参加者：5名(男1名、女4名)

・講師等：猪股満智子、花上友彦、村上述

##### 2. ツバメ調査活動

・調査期間：5月中旬~7月中旬

・未提出の調査済みデータについて：マッピ  
ングしてホームページに掲載しますので環境  
科学センターへ送付して下さい

##### 3. 部会例会の開催

・日時：9月21日(土)10:30~12:30

・場所：横浜市市民活動支援センター  
4階会議室

・主要テーマ 子ども環境体験教室、  
部会ホームページ、  
酒匂川探水隊活動  
次回環境展計画、  
ツバメ調査、  
その他

#### 活動予定

##### 1. ジョロウグモ調査活動

・調査期間：9月中旬~11月中旬

・“環境マップ”づくりも軌道に乗り始めまし  
たので参加大歓迎

##### 2. 酒匂川水系探水隊活動

・実施予定日：10月3日(木)

・集合：JR松田駅広場、9時

・調査地点：主として中津川地域

・参加希望者の連絡先：斉藤昭一

TEL 0462-56-5988

##### 3. 12月NO<sub>2</sub>測定調査活動

・測定地点：自宅周辺および主要道路の混雑地  
点

・捕集管組立および配付：12月1日(日)

13:30~15:00

・24時間サンプリング：12月5日(木)

18:00~6日(金)

・濃度測定：12月15日(日)

13:30~15:30

# エネルギー部会

部会長 北村 博子

## 活動報告

### 1. 子ども環境体験教室

8月24日(土) 13:00~16:15

参加者:小学生12名、中学生1名

清水代表、児玉事務局長、  
体験教室・木本担当

部会:福田、下条、萩原、矢嶋、北村

13:00~14:30神奈川TVの取材が入ることに。ビデオ視聴「地球が大変」と温暖化の話。「エコ紙芝居」「捨てた味噌汁の行方」終了後“水を汚しているのは誰?”の話。「エコカルタ取り」は、子ども達の人気。「実行したいエコ活動」を各自取ったカルタの中から3枚選び、省エネ・ゴミ・自然等にグループ分け。決めた実践1項目を参加児童全部で発表。面白く賑やかな「電気おこし」。「節電コンセント作り」は、皆が集中して出来た“物作り”。盛り沢山の楽しい3時間でした。参加した子どもの感想「省エネに出来るだけ協力し、地球のため、人間・動植物・自然を大切にしようと思いました」。

# ケナフ部会

部会長 荒谷 輝正

## 活動報告

### 1. 7月15日 日本ケナフ協議会総会に出席

ケナフに関心を持つ企業、研究者、ボランティア活動者が集まって情報交換を行った。

### 2. 7月20日 相模原土鍋の会でケナフ紙漉講習会 相模原北公民館「土鍋の会」は日本に住む外国人の子弟と情報交流する会。

15名参加

講師:小川、安部、荒谷

### 3. 7月21日 ケナフ部会定例会

場所:環境科学センター

・9月7日開催の「子ども体験環境教室」についての打ち合わせ

・ケナフ畑の草取り、圃場の整理

### 4. 8月2日 平塚市消費者センター主催「夏休み親子消費者教室ケナフによる花染め」

場所:環境科学センター実習室

親子30名参加

講師:早野

アシスタント:小川、河西、荒谷

### 2. エネルギー部会 9月22日(日)

### 3. 横浜市立芹が谷南小学校 総合学習

講師派遣後援 9月30日(月)

## 活動予定

### 1. 省エネ教室・生涯学級

#### 1) 親子の楽しい省エネ教室 後援

日時:10月13日(日) 11:00~17:00

場所:県民サポートセンター 604室

#### 2) 横浜市磯子区生涯学級「私の暮らしと環境」「暮らしとエネルギー」講師派遣

日時:11月5日(火) 13:30~15:30

場所:磯子公会堂 1階会議室

#### 3) 親子の楽しい省エネ教室 後援

日時:11月17日(日) 11:00~17:00

場所:県民サポートセンター 604室

### 2. 部会

#### 1) 日時:10月27日(日) 14:00~17:00

場所:県民サポートセンター 704室

#### 2) 日時:11月10日(日) 14:00~17:00

場所:県民サポートセンター 701室

#### 3) 日時:12月15日(日) 14:00~17:00

場所:県民サポートセンター 701室

### 5. 8月2日 ケナフチップによる臭い吸収実験

場所:環境科学センター

環境科学センター高橋専門研究員の指導で、ケナフチップ、竹炭による臭い吸収実験を行う。

臭い(アンモニアガス、二硫化ガス)に対して吸収効果が有ることを確認した。

### 6. 8月17日 桐蔭横浜大学おもしろ理科教室において、「ケナフ紙漉実演」を実施。

全部で3000人が訪れる大きな催しで、200人以上の人が紙漉体験をする。

応援者:早野、小川、鈴木、児玉、荒谷

### 7. 8月18日 ケナフ部会定例会開催

場所:環境科学センター

・9月7日開催の「子ども体験環境教室」の資料、担当者等の詳細検討

・圃場の管理

### 8. 8月22日 平塚市消費者センター主催「夏休み親子消費者教室ケナフによる花染め」

場所:環境科学センター実習室

親子30名参加

講師:早野、アシスタント:荒谷

(次頁へ続く)

(前頁からの続き)

9. 8月28日 ケナフ紙漉教室

藤沢青少年協会

講師：小糸 37名参加

10. 9月7日 環境科学センター主催「子ども体

験環境教室ケナフ染めに挑戦しよう」

21名(同伴父母は除く)参加

小川、小糸、高尾、鈴木、河西、荒谷

11. 9月17日 定例会を兼ねて愛川繊維会館(レインポー)で愛川国際ソロプティミスト協会と合同で繊維会館の和紙工房でケナフ紙漉実習

活動予定

10月20日 ケナフ部会定例会

## 廃棄物・リサイクル部会

廃棄物・リサイクル部会担当 石丸 博司

### 活動報告

厳しい夏も過ぎ大変過ぎよくなりました。第1回5月30日からはじまったワーキング活動『「ひと」と「環境」にやさしいまちづくり』(エコライフの推進)。(地域社会の環境面の健康診断のための)アンケート(質問紙)作り。第7回会合は9月20日午後13:30よりで実施。8月・9月2回の集中討議を踏まえ、まとめとして実施。

今迄参加していただいた方。安彦さん(7期)、石川さん(2期)、市川さん(9期)、岩田さん(9期)、児玉さん(事務局長)、紫牟田さん(9期)、立林さん(5期)、内藤さん(監事)、原さん(5期)、原さん(10期予定)、石丸の有志の方々です。

診断書の形も1部を除き整いました。暑さ厳しい中でしたが大変有難う御座いました。

主な構成は、

- ・表紙 はじめに 主旨と御願い
- ・記入に当たって 分類 用語の解説
- ・環のくらしからの設問5問
- ・市の環境方針からの質問5問

・環境への取り組み(廃棄物・リサイクル。買い物・循環型社会。省エネ・地球温暖化。環境教育健康・自然環境保全)全体で16問

・今後の取り組み

・自由記入 集計表

と記入した後自己診断出来る形にしました。

### 活動予定

10月からは次の展開に向けて、県内各地域での展開についての具体的な論議に入ります。

診断の集計・まとめ・目標設定・実施と評価について。

各地域での展開・行政や地域主体への働きかけ。担当と連携など多様。

多くの方の参加と推進に向けたエネルギーが必要です。賛同いただける方お待ちします。

次回第8回会合

日時：10月18日 13:30~17:00

場所：えびな市民活動サポートセンター

詳しい案内はK・リーダー会を通じ、またはFAXで要望の方へ案内します。連絡下さい。

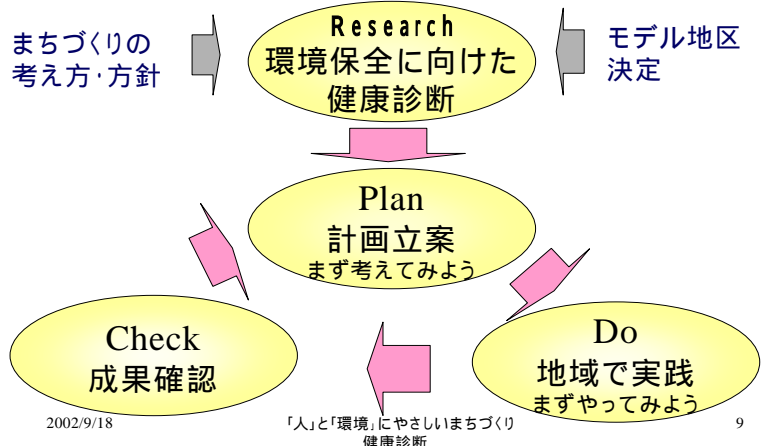
連絡先：石丸 博司

メール：isimaru@rd6.so-net.ne.jp

Tel / Fax:0463-94-8187

## 「ひと」と「環境」にやさしいまちづくり。展開 エコライフの推進

地域の主体と打ち合わせ・環境意識啓発・モデル地区



2002/9/18

9



# 会員の広場

## 河川で環境学習を指導 水生生物観察と水質検査

5期 渡邊 吉一  
(かながわエコリーダー会)

夏休みに行なわれた河川での水生生物の採集・観察と水質検査の催しを指導しました。そのうちの2件の概要を以下に記します。

### 夏休み子どもわんぱく探検隊

夏休み〔子どもわんぱく探検隊〕みんなでチャレンジを実施しました。藤沢市教育委員会からの依頼で今年は第4回目になります。

夏休みに入ってから8月2日、当日は真夏のカンカン照りでお天気に恵まれました。藤沢市のバスで朝8時に出発、約1時間半で現地到着です。

わんぱく探検隊の目的は、水生生物の採集による観察と水質のパックテスト(COD、pH)。探検隊が4回目ともなるとリピーターの子もいましてチョットした先生もやってくれます。

昨年まで厚木の三川合流地点・小鮎川で実施していましたが、今年の会場は秦野市の大倉にある県立秦野戸川公園の水無川です。雨天の場合を考えて、県立秦野ビジターセンターでの講習を準備しましたが終日水辺で過ごせました。

小学生22名、保護者10名、市の職員4名に指導員が2名の総員38名、往復のバス車中では神奈川の川についての話や、水生生物の話、簡単なクイズを出したり、環境科学センターからお借りしたビデオの上映など子供たちに飽きのこないようにしました。

昼食後の自由時間は、子供たちの待ちに待ったフリータイム。水着を用意してきましたので、もうおはしゃぎで水遊びを楽しんでいます。指導員は安全確保に努め無事に終了しました。

場所：県立秦野戸川公園内、水無川

水質：COD=4、pH=7、水温=20度

水生生物：11種(名前は省略)

協力：神奈川県環境科学センター

(株)共立理化学研究所

指導：かながわエコリーダー会  
神奈川県環境学習リーダー  
渡邊 吉一  
小林 義博

### あつぎ河川ふれあいまつり

厚木市主催「あつぎ河川ふれあいまつり」が今年も8月17日(土)に開催されました。予定では翌18日と2日間の開催ですが、台風13号の接近により18日は残念ながら中止になりました。

相模川・中津川・小鮎川の三川合流地点で種々のイベントが企画され実施された中で、夏休みの子供たちの学習に「川」の水生生物採集と観察、それに水質検査(COD、NO<sub>2</sub>、NH<sub>4</sub>)の指導を実施。

厚木市長は開催挨拶で、「相模川は神奈川県民の生活を支える大きな役割を担っている。その河川環境を守り次世代に継いで行くことが、私たち市民に課せられた重要な使命だ。みんなでつくる人と自然が共生した環境にやさしいまちづくりを目指していきたいと思います」と挨拶されました。

初日開場は11時、8時30分には現地着で準備を開始しなければ間に合わない。小鮎川に一番近い場所にテントを設営して頂いて準備は完了。

当日は台風13号の接近で天気が心配されましたが幸いに好天に恵まれ盛況に終わりました。残念なことに翌日は中止。この事業は4回目になりますが中止は初めてのことになりました。

毎年のことですが、子供たちもご両親も多数参加され、大変に熱心に観察しますので指導する我々も嬉しくなります。夏休みの良い思い出と学習が出来たことと思います。無事に終了することの出来たことがなによりでした。

参加者：95名(午後2回の合計)

水生生物：23種(名前は省略)

水温：22~24度

水質：COD=5、NO<sub>2</sub>=0.05、NH<sub>4</sub>=0.5

協力：神奈川県環境科学センター

神奈川県自然環境保全センター

(株)共立理化学研究所

指導：かながわエコリーダー会

神奈川県環境学習リーダー

渡邊 吉一

小林 義博

小糸 昌子

# 環境学習リーダーは オールマイティ

8期 宮崎 龍哉

みなさんはじめまして。そして8期の皆さんお久しぶりです。忙しさのせいにして、リーダー会の活動をすっかりサボっていました。会への入会も、今年初めてというありさまです。

しかし、環境問題への取り組みを全くしていなかった分けではありませんよ。

私は個人的に野山に出掛けて自然観察をしたり、行政の委嘱を受けて自然観察会のリーダーをしたりして、自然の中での楽しみや感動を味わっています。環境問題の中でも、自然と親しみ、自然を知り、自然を守る、自然保護の部分に自分を位置づけして活動しているんですよ。

先日も秦野ビジターセンター周辺で、シカの群れとムササビを見つけて喜んでいました。やはり野生動物に出会う事は感動します



よ。飼われてはいない、野生の動植物や他の生き物達がいるから、野山へ行きたいと思うし、この自然を守りたいって思うんですよ。でも、いくら自然を守りたいと思っても、自然にだけ気配りしていてもダメなんですよ。仮に丹沢を立入り禁止にしても(実際には人が立入らなくなる事で保護とは呼べないあらゆる要因があるが、それは別として)街で発生した化学物質が風に乗って、雨となり、土にしみ込み、森を殺してゆく……。まあ、もっと問題は複雑で大きいんでしょうけど、いずれにしろ、街の環境を良くしないと自然保護もあり得ないと思うんですよ。で、街を良くするのは、そこに住む「人」しかいないじゃないですか。職業も老若男女も問わずにね。

街のために、ある人はリサイクルを考え、ある人は化学物質問題に取り組み、ある人はグリーンコンシューマーに徹する。様々な行動が街も自然も人間も良くして行く。これって正に県内全域に居て、自分の好き(得意)な視点から環境問題に取り組んでる環境学習リーダーの姿ですよ。みなさんの位置づけは何処ですか?では、また。

## 子供向け環境教育

7期 土屋 智絵

先日、環境学習リーダー7期の会で「廃油で作るロウソクづくり」というのを発表しました。子供向け環境教育の一つとして皆さんにはご紹介したつもりだったのですが、大人の皆様方にも好評でとてもうれしく思っています。

作り方はとても簡単で、材料:『固めるテンブル』などの油を固めて捨てるためのもの、廃油、クレヨン、ジャムなどの空き瓶、香り付けにアロマテラピー用の液体、風系、割り箸などを使って作ります。まず、廃油を鍋であたためてそこにクレヨンを入れて、色をつけます。色が付いたら、油を固める凝固剤を入れて、すこしまします。瓶にはあらかじめ、割り箸で風系を瓶に固定して風系がロウソクの芯になるようにします。そこに、先ほどの液体を流し込み、あとは固まるのを待つだけです。

廃油を使った実験としては、石鹸づくりが有名ですが、たまには変わったもの、子供が興味を持ちそ

うなものがないか、と探していたときにこれを見ました。作り方は簡単なので誰でも作ることができます。(小さなお子さんにはロウソクの液体が跳ねてやけどになる場合があるので気をつけてください。)しかし、実際に生活の中でこれをリサイクルとして活用するには、多少問題があります。それは、ジャムのような小さな瓶に入る廃油の使用量は100ml~250mlくらいのものです。天ぷらや唐揚げ1回分で使用する油はそれ以上になることが多く、とてもまかない切れません。しかも、ロウソクを使う場面がなかなか少ない現代では、作っても活用の機会が少なく一回つくればもう十分です。

と、色々細かなことを言い出すときりがありませんが、私が子供向けの環境教育について思うことは、その題材が子供にとって“きっかけ作り”になっているかどうか、という視点だと思います。廃油からロウソクを作るという“きっかけ”から、「唐揚げを食べるとこんなに廃油ができるんだ!!」とか「これが、川の水に流れたら大変だね!」などの話に発展していってくれば大成功といえるのではないのでしょうか。

(次頁へ続く)



(前頁からの続き)

余談ですが、みなさんは“たまちゃん”を知っていますか。そう、突如として出現したあのアザラシです。はじめ、多摩川で発見されその後は鶴見川、大岡川にと移動とのこと、、、この事件で一つ思ったことがありました。“たまちゃん”の圧倒的な人気で連日、ワイドショーでは“たまちゃん”の健康状態



を気遣い、多摩川、鶴見川などの川の生態系の様子や、水質の状態などを報道しています。そのおかげで、私たちは、知らず知らずのうち

に川の汚れ具合を知ることでなりました。これこそまさに、“きっかけ作り”となっているなど、、、今まで多摩川、鶴見川の水質についてなどあまり興味を待たなかった人も今では、多摩川がまだ生物が

たくさん住んでいることや比較的水質がきれいなこと、鶴見川がだいぶ汚れていることなどを知ることとなりました。恐るべし“たまちゃん”パワーです。

今、私は環境学習リーダー7期の一部のメンバーと子供向け環境教育を実施しています。第一回は「牛乳パックやペットボトルを使った工作」、第二回目は「廃油でロウソクづくり」、第三回目は「空飛ぶ種をつくろう」を実施しました。毎回、テーマを考えるのにはとても苦労しています。まず、子供でも簡単である内容であること、それから楽しめる内容であること、環境科学センター内で実施できる内容であることなど(外での活動も企画中) 試行錯誤しております。しかし、子供たちの反応はとてもよく毎回楽しみにしてくれるようになりました。まだ始めたばかりですが、これからも楽しみです。

## 仙台からの環境だより

6期 佐藤 俊彦

仙台市は 100 万都市の姿を有しながら、四季のうつろい豊かな自然に恵まれた「杜の都」。メインストリートには

美しいけやき並木が連なり、市街中心部を流れる清流広瀬川など緑豊かな環境が残る都市です。



魅力あふれる「杜の都・仙台」

今月、仙台市環境局を訪

問。担当の方も神奈川県環境学習リーダーの取り組みを知っており、快く対応してもらいました。地球推進係の高橋さんからお話を聞きました。

今年、南アで聞かれた「持続可能な開発に関する世界首脳会議」に行政と、市民団体 3 グループで構成する「ヨハネスブルグ・サミット仙台フォーラム実行委員会代表団」(16 人)が参加。仙台市は、1980 年代のスパイクタイヤによる深刻な道路粉塵公害から展開した脱スパイクタイヤ運動に始まり、グリーン購入の取り組みを報告。2004 年に「グリーン購入国際会議」を仙台市で開催することを提唱。屋敷林を受け継ぐ活動を通じて「身近な環境・伝統」を守り、足元から環境に関わっていく大切さを市民団体が発表。「マイバッグ運動」、「学校リサイクル運動」、「生ごみから有機たい肥への循環型社会へ」の市民レベルの取り組みを紹介。世界の人々とともに、環境

の大切さを新たに認識でき、参加して本当に良かったとの意見でした。

次に、リサイクル推進課の武田さんよりリサイクルの現状についてお話を聞きました。

仙台市は環境先進都市にふさわしい、ごみ減量に関する目標数値を設定しています。ごみ減量・リサイクル目標は、

(1) 1 人 1 日 ごみ排出量:

平成 10 年度 1,277 グラム

平成 22 年度 1,107 グラム

(2) 年間リサイクル率:

平成 10 年度 16.9%

平成 22 年度 30%

市民のみなさんが、家庭で、地域で、職場で、「ごみになるものは選ばない、買わない、持ち込まない」よう積極的な取り組みをお願いしています。平成 11 年 11 月より、「100 万人のごみ減量大作戦」キャンペーンを実施。総合学習で環境市民団体の講師協力。14 年度 4~6 月実績としては前年度比 7.9%の生活ごみが削減できました。今年度は、リサイクルモデル事業を市内 20 の小中学校で実践。今後は、モデル事業をもとに子供への環境教育をより重点的に推進していきたいとの意見でした。

私も最近子供からごみはこのように分別すると良いと、逆に教えられることが多いことに気が付いた次第です。

「環境メッセ東北 2002」のイベントが 10 月にあります。

詳細は <http://www.kk-tohoku.or.jp/>

# = 豆知識のページ =

## 地域活動成功の秘訣

### - 会員の里山活動の例 -

地元の里山を整備・活用するグループ「和泉の森を育む会」を昨年(2001年)立ち上げ、その後の活動を順調に発展させている中村孝夫さん(7期)に成功の秘訣をお聞きしました。皆さんの参考になればと思います。

#### 活動前の里山

この里山は中村さんの地元(横浜市泉区)にある市街地に隣接した民有地で、広さはおよそ200m四方の森です。この森は過去およそ30年間手入れされなかったため、うっそうと生い茂った雑木林で、ゴミや廃棄物が多数捨てられていました。

#### 活動の開始

昼でも暗いうっそうとした森を市民の手で明るくきれいな森にし、地域の人々が愛し、自然・環境教育にも役立つ場にしたいということが活動のねらいでありました。この活動をするために、中村さんは昨年「和泉の森を育む会」という名のボランティア団体を作り、森の整備活動を開始しました。その会員は森が属する町内およびその近隣の人たちで、現在の会員数は33名です。

#### 活動内容

「和泉の森を育む会」は次の活動をしています。

- ・森の下刈り、古倒木の整理、通路の整備
- ・森のゴミや廃棄物の清掃
- ・自然観察会、講演会、他の森公園の見学会
- ・森の中でのイベント(やきいもパーティー、木こり体験、きのこ栽培、など)

森が整備されてきたので、最近はイベントが盛んになってきました。

#### 活動成功の秘訣

活動の立ち上げに成功し、その後の活動を順調に発展させています。その秘訣は次の点にあります。

##### 1) 森の地権者(地主)の理解

森の地権者が責任をとられるとか地権者の権利が損なわれるという事はない活動であることを各地権者(計6名)に説明し、『森を活動グループに任せても安心である』ことを理解してもらった。

安心してもらうための要点は、

- ・火災などの事故を起こさない
- ・森の中に構築物を作らない
- ・森の中に野菜を植えない

などです。

##### 2) 地域住民の参加

活動は1人あるいは会員だけでは出来ないことを事前に認識し、地域の人々に声をかけて協力してもらった。

具体的には、

- ・町内会役員が活動の相談にのってくれた
- ・町内会の会報・掲示板に活動を掲載してくれた
- ・森の隣にある幼稚園が活動用に部屋を貸してくれた  
同幼稚園の園長が地主との折衝に協力してくれた
- ・町内会の老人会が食事(焼きそば、豚汁)を提供してくれた
- ・町内会の子供会が親と一緒に森での下記イベントに参加してくれた  
やきいもパーティー  
木こり体験  
自然観察会

##### 3) 近隣のグループによる支援

森に関して既に活動している近くの2つのグループ(市民の森グループとNPOよこはま里山研究所)に下記の支援をしてもらった。

- ・森の良さの講演
- ・ボランティア組織の説明
- ・きのこ(しいたけ)栽培の説明
- ・イベントの指導

#### まとめ

活動が成功し長続きするためには『地域の人々が喜ぶ活動』を行うことにあります。地域の人々が「きれいになったね」と喜ぶとともに、イベントを行って多くの人々が(子どもも大人も)参加して楽しめる場を提供することがキーポイントです。

#### 連絡先

中村 孝夫(「和泉の森を育む会」事務局)  
〒245-0016 横浜市泉区和泉町2119  
TEL 045-803-3581  
e-mail ty.nakamura@pep.ne.jp

(広報部 羽生田 洋啓)



やきいもパーティー

# グリーンコンシューマーってなに

## グリーンコンシューマーの語源

「グリーン(Green) = 緑・環境を大切にするというシンボルカラー」と

「コンシューマー(Consumer) = 消費者」を合わせた造語

消費者が環境を優先した買い物をし、環境に配慮した企業活動を応援することで、環境を守る社会を作り上げていこうとする活動。1988年に、イギリスで発刊された「ザ・グリーンコンシューマー・ガイド」によって提案され全世界に急速に広まりつつある。

## 買い方で社会が変わる

1. 消費者が環境に配慮した商品を選んで買うことで
2. 販売店は環境に配慮した商品を品揃えし
3. 企業は製品の開発段階から環境への配慮を始める
4. 社会が環境によい方向に変わっていく

## グリーン購入法が2001年4月に施行

国や自治体が率先して環境に配慮した商品を購入(グリーン購入)することで、環境負荷のより少ない製品への転換を図るルールを定めたモノが「グリーン購入法」である。

大口購入者として国や自治体がグリーン購入することで、環境配慮型商品を普及させ、市場の流れを変えていこうというもの。環境配慮型商品の市場拡大や価格の低下により、消費者も環境配慮型商品を選択しやすくなる。

## 「地球に優しい買い物ガイド」

(グリーンコンシューマネットワーク発刊)

1. 必要なものだけ買う
2. ゴミは買わない、容器は再利用できるものを選ぶ
3. 使い捨て商品は避け、長く使えるものを選ぶ
4. 使う段階で環境への影響が少ないものを選ぶ
5. 作る時に環境を汚さず、作る人の健康をそこなわないものを選ぶ
6. 自分や家族の健康や安全をそこなわないものを選ぶ
7. 使った後、リサイクルできるものを選ぶ
8. 再生品を選ぶ
9. 生産・流通・使用・廃棄の各段階で資源やエネルギーを浪費しないものを選ぶ
10. 環境対策に積極的なお店やメーカーを選ぶ(買い方が変わればお店が変わる)

## 環境ラベル

製品等が環境に与える影響に関する属性情報をラベルの形で表示したものが「環境ラベル」。

環境ラベルは、購買の場面において、消費者・企業に対して環境に優しい製品の選択や開発を促す。また、リサイクル・廃棄の場面において、消費者・企業・事業者・自治体のそれぞれに対して、適切な分別回収と再利用を促す。

1. 商品選択を通じて環境に優しいライフスタイルへ誘導する。  
エコマーク、国際エネルギースターロゴ、省エネマークなど
2. 材質表示(識別)マーク  
アルミ、スチール、ペットボトル、ニカド電池
3. 再生品使用マーク  
Rマーク(古紙含有率)、牛乳パック再利用、PETボトル再利用、グリーンマーク(古紙利用)

## グリーンコンシューマーの例

1. 買い物バッグを持ち、レジ袋は使わない。メモを持ち無駄な買い物をしない。
2. 旬の食材を食べる。地元産を買う。  
トマト夏取り 1,200kcal 冬春 12,000kcal
3. 3R(Reduce, Reuse, Recycle)の視点で買うときから使い終わった後まで考える。

(広報部 原園 信夫)



## Rマーク:

古紙使用の再生紙であることを示すマーク(数字は古紙の配合率を示し、100のほかにも70などがある)



## グリーンマーク:

古紙を再生利用した製品であることを示すマークで、このマークを学校や町内会・自治会などで集めると点数に応じて苗木(または古紙を利用したノート)をもらえる



## 再用品マーク:

回収した牛乳パックを原料にした製品であることを示すマーク(トイレtpーパーなどの製品)





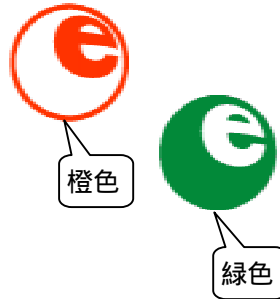
再利用品マーク：  
ペットボトルを再利用した製品であることを示すマーク



材質マーク：  
充電式電池の材質マークで、マーク下の文字が材質を表す（充電式電池は店頭などで回収される）



材質マーク：  
ペットボトルであることを示すマーク



省エネマーク：  
家電製品の省エネ基準達成度を示すマークで、オレンジマークは未達成、緑色マークは達成を示す（対象はエアコン、テレビ、冷蔵庫、冷凍庫、蛍光灯器具）



材質マーク：  
容器包装の材質がプラスチックであることを示すマーク



国際エネルギースターロゴ：  
省エネ基準を達成したOA機器に表示されるマーク



材質マーク：  
容器包装の材質が紙であることを示すマーク



材質マーク：  
缶の材質（アルミまたはスチール）を示すマーク



エコマーク：  
環境にやさしい製品であることを示すマーク

## 掲示板

### 7期の情報交換会

7期の有志（7期会）が主催する情報交換会（勉強会）が下記のとおり行なわれます。

7期の皆さん、およびその他の期の皆さん、ご参加ください。

日時：10月5日（土）13：00～15：00

場所：環境科学センター

内容：下記題名での講話（カッコ内は講師）

1. GO3の経過報告と今後の活動  
(7期 原園信夫)
2. 生ゴミと微生物の働き  
(7期 狩野光子)
3. 地球っ子広場活動  
(7期 佐藤洋徳)

連絡先：原園 信夫

TEL 0463-34-5738

Mail harazono@eva.hi-ho.ne.jp

### 会員の訃報

去る7月21日、1期生の宮島完さんが肺がんでご逝去された旨の連絡が奥様(圭子様)より入りました。ここに謹んでご報告しご冥福をお祈りいたします。

### 編集後記

前号までは広報部が執筆した記事に筆者名を表示していませんでしたが、今号からは広報部が執筆した記事にも筆者名を表示することにしました。表示場所は記事の最後です。

本紙を編集して感じることは、本紙の『会員の広場』欄へ会員の皆さんからもっと投稿があれば良いのだがということです。皆さんが考えていること、活動していること、その他何でも結構です。筆をとってみてください。

広報部 羽生田 洋啓

発行人：神奈川県環境学習リーダー会

代表 清水 幸夫

編集人： 広報部長 森 千春

TEL 0468-57-0835 FAX 0468-57-0837

発行日： 2002年9月29日